

町制施行
90周年
記念事業

魅力発信
田子に眠る
映画監督



そうまいしんじ
相米 慎二 (映画監督)
1948年 岩手県盛岡市生まれ
1954年 北海道へ転居
1955年 父親の正さんが死去
1966年 釧路江南高校卒業
1967年 中央大学文学部入学
1971年 同大中退
1972年 日活撮影所で契約助監督に
1976年 フリーとなる
1980年 「翔んだカップル」で監督デビュー
1981年 「セーラー服と機関銃」が大ヒット
1985年 「台風クラブ」が第1回東京国際映画祭で
ヤングシネマ部門大賞を受賞
1999年 「あ、春」がキネマ旬報ベストテン第1位
2001年 9月9日、13作品を世に遺し、
肺がんのため死去。享年53歳。

相米慎二 監督

映画祭り 2018 8/25 (土)

青森県田子町
タブコピアプラザホール
13:00 開場
13:30 開演
13:30 主催者あいさつ、見どころ紹介
13:45 映画上映「雪の断章-情熱-」
15:45 トークショー
17:00 終演

トークショーゲスト (来場予定)

※都合により、出演が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



俳優 さいとう ゆき
齊藤由貴



俳優 いのうえ たかあき
榎木孝明



映画美術デザイナー
おがわ ふみお
小川富美夫

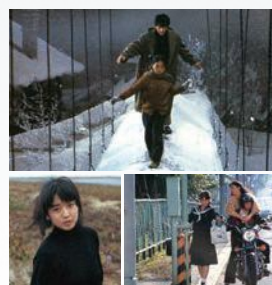


映画監督
いのうえ けんじ
榎戸耕史

上映作品



雪の断章-情熱-



入場無料 (整理券必要)

ただし事前配布する**入場整理券**が必要です。
また、小学生以下のご入場はご遠慮いただきます。
入場整理券をご希望の方は、
下記①か②の方法でお受け取りください。(平日のみ)

① 役場へおいでください。
田子町役場政策推進課で直接お渡しいたします。

② 電話でご予約ください。

☎ **0179-20-7127**

8時30分～17時

田子町役場政策推進課「映画祭り」係
お電話でご予約の場合、入場整理券は映画祭り当日、
会場受付でお渡しいたします。

入場整理券配布 (平日のみ)

【田子町民先行配布開始】7月26日～
【一般配布開始】8月1日～

お一人様2枚までとさせていただきます。希望者多数
の場合は、無くなり次第終了となりますので、あらかじめ
ご了承ください。

シャトルバス運行あり (要・事前予約)

8月25日(土) [八戸市内～会場間]
詳しくは田子町政策推進課へお問い合わせください。

託児室あり (要・事前予約)

青森県町村会「町村の魅力発信事業」活用事業 青森県田子町

後援 田子町教育委員会 / 公益財団法人にんにくネットワーク / 田子町観光協会 / 映画監督相米慎二を語りつくす会 協力 青森映研 問い合わせ先 田子町役場政策推進課 TEL0179-20-7127

代表作「セーラー服と機関銃」などで知られる映画監督の相米慎二さん(2001年逝去)は、田子町との縁が大変深い方で、生涯独身であったことから、現在は町内にある先祖代々の墓で眠っています。

13回忌の際に、当町相米地区の慰霊碑前で「映画監督相米慎二をしのぶ会」が初めて開催され、町内外から多くのファンや関係者らが献花に訪れ、監督をしのびました。同時に「映画監督相米慎二を語りつぐ会」が結成され、相米監督を語りついでいこうという気運が高まりました。

これを受け、町では、映画監督相米慎二さんを「地域の魅力」と捉え、芸術文化の分野から新たなまちおこし活動を展開して、地域の元気につなげていきたいと考えました。今後は「映画監督相米慎二を語りつぐ会」の活動をサポートしながら、あらためて生前の功績をたたえ、『映画監督相米慎二』を見て・聞いて・学ぶことができるような機会を創出し、監督を知る方にも知らない方にも、今なお多くのファンや関係者らに愛されている魅力を発信していきたいと思っております。

| 作品名 | 公開年 | 出演 |
|-----------------|------|------------------------|
| 翔んだカップル | 1980 | 鶴見辰吾、薬師丸ひろ子、尾美としのり、他 |
| セーラー服と機関銃 | 1981 | 薬師丸ひろ子、渡瀬恒彦、風祭ゆき、他 |
| シオンベン・ライダー | 1983 | 藤竜也、河合美智子、永瀬正敏、坂上忍、他 |
| 魚影の群れ | 1983 | 緒形拳、夏目雅子、佐藤浩市、十朱幸代、他 |
| ラブホテル | 1985 | 速水典子、寺田農、中川梨絵、志水季里子、他 |
| 台風クラブ | 1985 | 三上祐一、紅林茂、松永敏行、工藤夕貴、他 |
| 雪の断章 一情熱一 | 1985 | 斉藤由貴、榎木孝明、岡本舞、世良公則、他 |
| 光る女 | 1987 | 武藤敬司、安田成美、秋吉満ちる、すまけい、他 |
| 東京上空いらっしゃいませ | 1990 | 中井貴一、牧瀬里穂、笑福亭鶴瓶、他 |
| お引越し | 1993 | 中井貴一、桜田淳子、田畑智子、笑福亭鶴瓶、他 |
| 夏の庭 The Friends | 1994 | 三國連太郎、坂田直樹、王泰貴、牧野憲一、他 |
| あ、春 | 1998 | 佐藤浩市、斉藤由貴、富司純子、山崎努、他 |
| 風花 | 2001 | 小泉今日子、浅野忠信、麻生久美子、柄本明、他 |



かつて相米監督が当町の
にんにくとべごまつりで
講演したときのショット

雪の断章

— 情熱 —

STORY

物語

愛を捨てたら、 幸せになれるんですか

札幌市内を流れる豊平川——雪は渦を巻いて吹き荒れ、暗い川面は不気味な音をたてていた。その橋の欄干の上を、真冬というのにオーバーも着ず、危なげに歩く少女がいた。

伊織・七歳。そこへ吹雪の中から一人の青年が現れ、死ぬつもりだった伊織を助ける。彼は雄一——商社に勤務するサラリーマン。伊織を自分のアパートに連れ帰り、彼女の不幸な境遇を聞き出した。

伊織はみなし児で、那波家に引き取られたが、そこでメイド以下のひどい扱いを受けていた。すっかり人間不信に陥ってしまった彼女を、自分が引き取り育てようと思った雄一は、那波家へ乗り込んでいった。

家政婦のカネは反対するが、親友の大介の励ましもあって、当分結婚することもあきらめ、伊織との共同生活が始まった。

そして、十年の歳月が過ぎた。伊織は高校卒業をひかえた、美しい娘に成長していた。雄一は、彼女に北大を受験するようすすめ、伊織もまた、東京への転勤を断わってまで自分に賭けてくれる雄一に答えようとする。

伊織の通学する高校には、同じ北大を受けようとする那波家の次女・佐智子がいた。そして、長女の裕子は雄一と同じアパートに引っ越してきた。伊織と那波家の縁は、見えぬ一本の糸のようにつながっていく……。

ある夜、裕子の歓迎会がアパートで開かれた。そこで、裕子は見事な舞踊を披露し、雄一や大介たちはその素晴らしさに拍手を送る。伊織もまたかつての仕打ちが薄らいでいくのを感じたが、裕子の反応は以前と変わらず冷たかった。

事件が起きたのは、その直後だった。部屋へ戻った裕子の様子を見に行った伊織は、冷たくなって倒れている裕子の姿を発見する。検証の結果、青酸入りのコーヒーを飲んで死んだものと判明した。

裕子の部屋へコーヒーを運んだ伊織に殺人の疑いがかかり、刑事の吉岡につきまとわれ

る事になってしまった。自分の部屋を警察の手で荒らされ、ショックを受けた伊織は、カネから「雄一さんはあなたがひとりの女として成長するのを待っている」と聞かされ、二重のショックを受ける。その晩、東京へ出張中の雄一からの電話に、伊織は「偽善者」と思わず叫んでしまう。

雄一が出張から帰る日、電話の件を詫びようと、伊織は空港へ駆けつけた。しかし彼は伊織の知らぬ女性——恵子と一緒に降り立ってきた。それを見て伊織はいつしか走り出していた。そして、雄一に対して素直になれない自分を恥じ、後悔するのであった。

伊織が部屋へ戻ると、そこに恵子がいて「雄一さんを私に返してね。私はあの人のフィアンセなんですから」と言われてしまう。

傷心の日々が続くなか、大介の誕生日がやってきた。伊織は大介には内緒で花束を届けるが、その部屋で見たものは、あの殺人事件の謎を解く“ある事実”であった。

後略……

(※当時発行のパンフレットより転載)